



国立大学法人

浜松医科大学

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号
TEL.053(435)2111
<http://www.hama-med.ac.jp/>

■ 問い合わせ先

入試に関すること 入試課入学試験係
TEL.053(435)2205 FAX.053(433)7290
E-mail : nyushi@hama-med.ac.jp

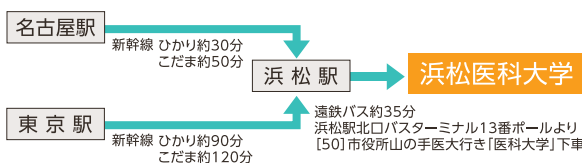
大学院に関すること 学務課大学院係
TEL.053(435)2204 FAX.053(435)2233
E-mail : daigakuin@hama-med.ac.jp

LOCATION



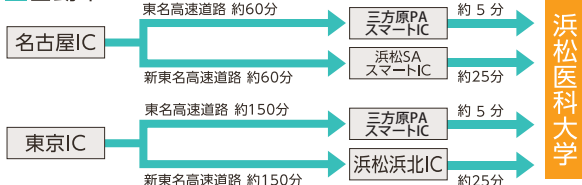
ACCESS

交通(新幹線・バス)



※ひかりは一部のみ浜松駅停車

自動車

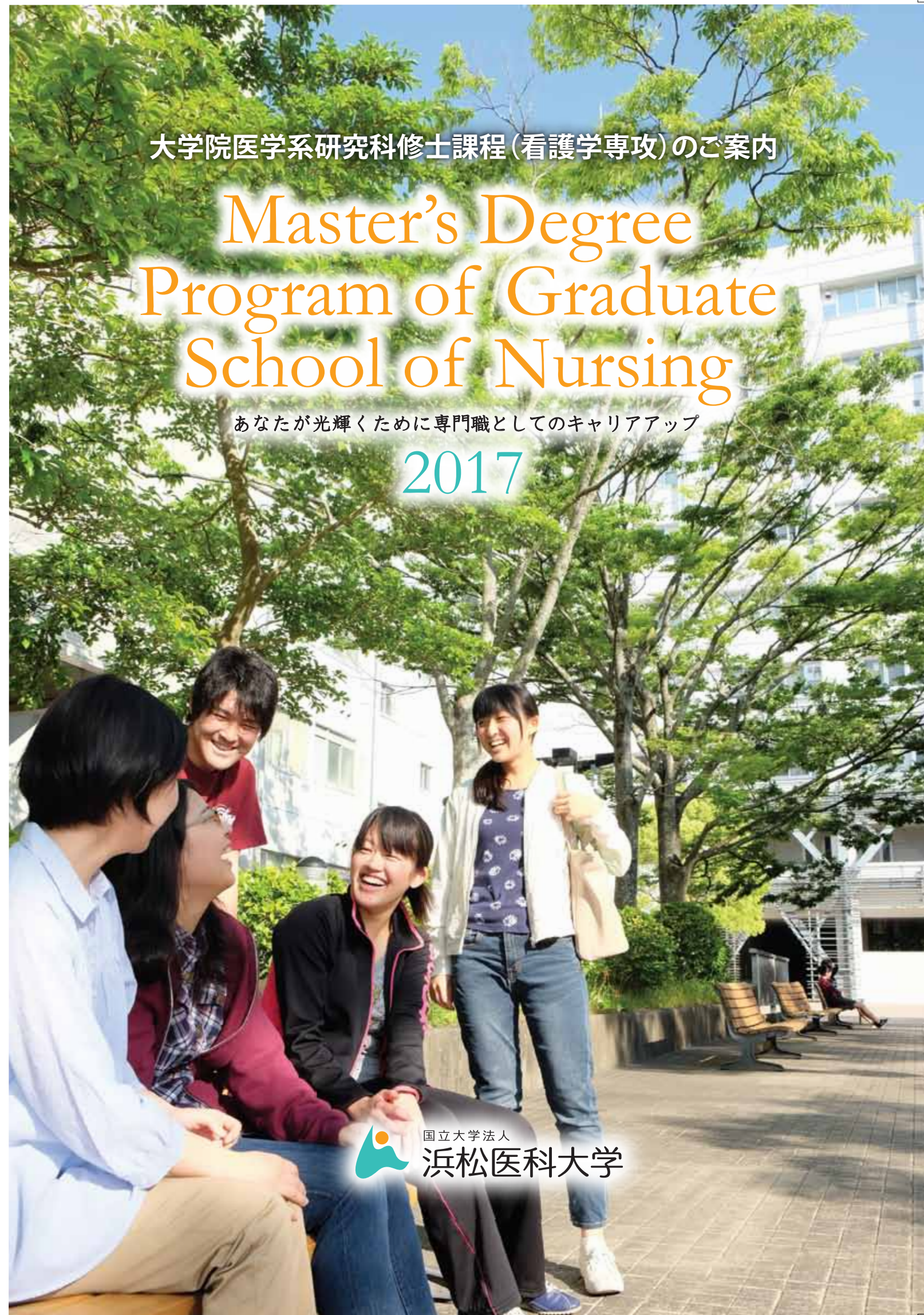


大学院医学系研究科修士課程(看護学専攻)のご案内

Master's Degree Program of Graduate School of Nursing

あなたが光輝くために専門職としてのキャリアアップ

2017



国立大学法人

浜松医科大学

昼夜開講制や長期履修制度を導入 仕事をしながら、あなたのスタイルで 柔軟に学べます

これまで修得した専門的知識・技術を基盤に、科学的思考力、問題解決力、創造性と基礎的な研究能力を養い、高度な実践能力と倫理観を備えた高度専門職業人、教育者及び研究者の養成を目的としています。

教育目標

- 1) 特定の専門分野での看護実践の場における研究活動を通じて、高度な専門的知識と技術の向上・開発を図る能力の修得
- 2) 看護学教育と実践活動の場において、専門性の高い教育的機能を果たす能力の修得
- 3) 看護実践を通じて、専門性と倫理観に基づくケアの提供、研究を行える能力の修得
- 4) 看護の専門領域に関わる新しい課題にチャレンジできる高度な能力の修得
- 5) 文化的、社会的背景を考慮して健康問題をとらえ、国際的に活躍できる高度な能力の修得

浜松医科大学大学院医学系研究科修士課程の特徴

- ◎ 4年制大学卒業者に限らず、専門学校や短期大学の卒業者も入学できます。
- ◎ 医療分野の看護に関連する領域で働く方（保育士、栄養士、健康運動指導士等）の在籍実績があります。
- ◎ 修士課程を修了した後、本学の博士課程（医学）へ進学することもできます。
- ◎ 本学附属病院のほか、勤務先も研究フィールドとできるようバックアップ体制が整っています。

図書館

図書館では、看護学分野の専門書をはじめ、研究活動を支援するための図書、学術雑誌、AV資料などを揃えています。

開館時間	月曜日～金曜日 9:00～20:00 土曜日・日曜日 10:00～17:00
------	-------------------------------------------

※申請により開館時間外や休館日でも24時間利用できます。



働きながら学ぶ学生を支援するプログラム

長期履修制度

学ぶ期間を延ばせる

2年分の授業料で、履修年限を延長して、修了に必要な単位(30単位以上)を3～4年間で修得。通学日や時間割を柔軟に配分することができます。ただし、助産師養成コースの履修者は長期履修制度の利用はできません。



昼夜開講制

一日を有効に活用

夜間開講により仕事や子育てをしながらでも無理なく学べます。夕方6時から9時の授業を中心に各自のワークスタイルやライフスタイルにあわせて無理のないペースで学べます。



浜松医科大学大学院修士課程(看護学専攻)は、現在臨床の場で活躍している看護師や保健師等も気軽に学べる場です。カリキュラムも「自分の学びたい領域を深く学ぶ」、「領域を超えて広く学び教養を深める」などキャリアアップのために、あなたの希望や目標にあわせて自由に組み立てられるようにしています。

納付金

入学科 / 282,000円

授業料 / 年額: 535,800円

(前期分: 267,900円)
(後期分: 267,900円) 平成29年度実績



修士論文コース p4

専門分野、研究領域及び授業科目一覧

基礎看護学

健康科学領域

解剖学、生理学、微生物学、薬理学、免疫学などの基礎的な知識と研究方法を学びます。これにより、科学的思考を養うことで、看護学のさらなる発展に寄与する人材を育成したいと考えています。

基礎看護学領域

基礎看護学に関する研究方法を学びます。ゼミナールでは、ディスカッションを通して、自分の看護実践を見つめ直すことで、看護の質の向上に寄与する研究指導を行っていききたいと考えています。

p4

成人・老人看護学

成人看護学領域

慢性看護、がん看護、急性期看護、遺伝看護に関する看護の質の向上を目指した実践と研究課題を追究しています。修論コースおよび高度看護実践コース(クリティカルケア看護CNS課程)の指導を行います。

老人看護学領域

多様な状況にある高齢者と家族の健康に関する諸問題を理解し、基本的な研究能力を修得します。これにより、高齢者の健康障害に関連した社会のニーズに対応できる実践家及び看護研究者の育成を目指しています。

p5

母子看護学

母性看護学領域

関連領域の最新の課題をとりあげ、知識、技術、自己の価値観、倫理性を高める学習を行います。研究の基礎から論文の作成に至るまで、科学的根拠に基づいて丁寧に教授します。

小児看護学領域

小児看護の現状と課題を見据え、小児看護関連の理論の基礎的理解を目指して、小児がん看護、発達障害児の看護等現在のトピックを交えながら学習します。また、小児看護学領域を中心とした看護教育や対人関係の基礎的理論を学習します。「学ぶ楽しさ」を実感してください。

p6

地域・精神看護学

地域看護学領域

地域看護学の概念・理論を教授し、効果的な活動方法を探求します。行政及び産業における健康問題を解決するためのエンパワメント能力の育成や質的・量的研究方法について具体的に丁寧な指導を行います。

精神看護学領域

悩みを抱える人、心を病む人、発達過程にある人等、さまざまな対象におけるメンタルヘルス上の課題に焦点をあて、現状と関連要因を究明し、効果的な援助方法を明らかにするために研究を進めています。

p7

高度看護実践コース p8

助産師養成コース p9

修士生のことば p10

授業科目及び単位数					
区分	専門分野	授業科目の名称	授業を行う年次	単位数	摘要
共通科目	基礎看護学	看護研究	1	2	修論コース 4単位以上を選択
		看護教育論	1	2	
		看護理論*1	1	2	
		看護倫理*1	1	2	
		看護政策論*3	1	2	
		免疫学	1	2	
		医療薬理学	1	2	
病理学	1	2			
専門科目	基礎看護学	基礎看護学特論*1	1	4	修論コース (1)専門分野のうち 主領域の特論及び 演習の8単位を選択 (2)(1)で選択した以外 の特論4単位以上を 選択 (3)特別研究14単位を 必修
		基礎看護学演習	1・2	4	
		健康科学特論	1	4	
		健康科学演習	1・2	4	
	成人・老人看護学	成人看護学特論*2	1	4	
		成人看護学演習	1・2	4	
		老人看護学特論	1	4	
		老人看護学演習	1・2	4	
	母子看護学	母性看護学特論	1	4	
		母性看護学演習	1・2	4	
小児看護学特論		1	4		
小児看護学演習		1・2	4		
地域・精神看護学	地域看護学特論*3	1	4		
	地域看護学演習	1・2	4		
	精神看護学特論	1	4		
	精神看護学演習	1・2	4		
特別研究		2	14		

*1 基礎看護学特論には、看護理論2単位及び看護倫理2単位を含む(基礎看護学特論を履修しようとする者は、看護理論、看護倫理を選択できない)。

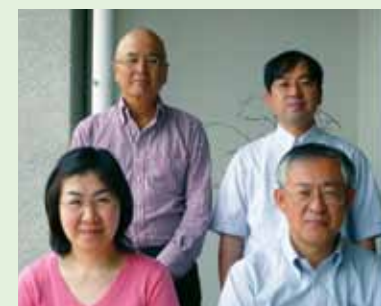
*2 成人看護学特論には、急性期看護学特論2単位を含む。

*3 地域看護学特論には、看護政策論2単位を含む(地域看護学特論を履修しようとする者は、看護政策論を選択できない)。

健康科学領域

Health Science

健康科学では看護の臨床・研究で土台となる生理学、薬理学、病理学、免疫学、微生物学の基礎的研究を通じて、知識の習得、科学的思考を養成することにより、看護学・基礎医学の一層の発展に寄与することをめざしています。



渡邊 泰秀 永田 年
山下 寛奈 三浦 克敏

研究内容

医療薬理学部門

心筋細胞内Ca動態に大きく関わるNa⁺/Ca²⁺交換輸送体の機能に焦点をあて、ホルモン、神経液性伝達物質、局所ホルモンの作用、心筋保護薬などの薬物の作用、病態時における役割などについて細胞電気生理学的手法を用いて研究します。

病理部門

形態学を主に分子生物学や免疫学の方法を用いて、病気の原因、発生の仕組み、経過、転帰といった一連の過程を調べ、疾病の理解を深めます。ヒト乳頭腫ウイルスによる子宮頸部癌や頭頸部癌の発症病理、超音波顕微鏡を用いた組織のイメージング、グリセロリン脂質やアミロイドシスの発症機序、妊娠異常と胎盤の変化などについて研究しています。

感染免疫学部門

結核菌等の細胞内寄生細菌に対する免疫応答、バイオフィーム形成細菌の殺菌に関する研究等をおこなっています。

教員の研究テーマ・主な業績

渡邊 泰秀(教授)・・・細胞電気生理学、薬理学

- Wei J, Watanabe Y, Takeuchi K, Yamashita K, Tashiro M, Kita S, Iwamoto T, Watanabe H, Kimura J: Nicorandil stimulates a Na⁺/Ca²⁺ exchanger by activating guanylate cyclase in guinea pig cardiac myocytes, Pflugers Archiv-European Journal of Physiology, 468, 693-703, 2016.

三浦 克敏(教授)・・・超音波顕微鏡、頭頸部病理、代謝障害の病理

- Miura K, Yamamoto S: A scanning acoustic microscope discriminates cancer cells in fluid, Scientific Reports, 19, 15243, 2015.
- Miura K, Egawa Y, Moriki T, Mineta H, Harada H, Baba S, Yamamoto S: Microscopic observation of chemical modification in sections using scanning acoustic microscopy, Pathological International, 65, 355-366, 2015.

永田 年(教授)・・・微生物学、免疫学

- Ikeda M, Enomoto N, Nagata T et al.: Nontypeable *Haemophilus influenzae* exploits the interaction between protein-E and vitronectin for the adherence and invasion to bronchial epithelial cells, BMC Microbiology, 15, 263, 2015.
- Matsui Y, Nagata T et al.: Three-year prospective, observational study of central line-associated bloodstream infections in a 600-bed Japanese acute care hospital, Am J Infect Control, 43, 494-498, 2015.

基礎看護学領域

Fundamental Nursing

基礎看護学領域では、看護技術や看護教育方法の創出、看護管理、看護倫理、様々な看護場面における心理的側面の検討等に関する質的・量的研究を通じ、看護学と看護実践の発展に寄与することを目指します。研究指導は、各自が興味・関心を持つテーマについて、関連論文の抄読・検討、研究計画の作成から研究の実施、関連学会での発表、論文作成まで、セミナーなどグループでのディスカッションを中心とし、学生の個別の事情に合わせて個人指導も行います。



村松 妙子 鈴木 美奈 片山 はるみ 青木 好美

研究内容

看護学教育

看護学教育における様々な課題の解決に向け、死生観教育、感染予防行動の形成など、新たな教育方法の開発とその効果を検証する研究に取り組んでいます。

看護場面の心理的側面の検討

ケア従事者のコンピテンシーの抽出と教育プログラム作成、看護学生・看護職者のメンタルヘルスや中堅看護師のキャリア開発等、心理学の知識を応用した研究に取り組んでいます。

看護における倫理

看護職者に必要な倫理的能力の教育に関する研究や看護学生の倫理的感受性の育成に関する研究に取り組んでいます。

教員の研究テーマ・主な業績

片山 はるみ(教授)

- 松本志保子, 片山はるみ: 回復期リハビリテーション看護に従事する看護師のコンピテンシー, 日本看護管理学会誌, 21, 1-13, 2017.
- Katayama H, Matsumoto S, Kamata Y, Negi K, Suzuki T, Aoki Y, Sato Y, Suzuki M, Muramatsu T: The Competencies of Nurses Engaged in Recovery Rehabilitation Nursing in Japanese Hospitals, The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2017, in Hong Kong.
- 青木好美, 片山はるみ: 自傷行為に対する反感態度尺度の日本語版の信頼性と妥当性, 日本看護科学会誌, 36, 255-262, 2016.
- Katayama H, Suzuki M, Muramatsu T, Shimogawa Y, Mizushima Y, Hiramatsu M, Nakamura K, Suzue T: Effect of stress relief of the footbath using bio-marker in Japan, International science index conference proceedings, 275, 2016.
- 下川唯, 片山はるみ: 中堅看護師の役割に対する「やりがい感」と「負担感」の同時認知と精神的健康や仕事意欲との関連, 日本看護科学会誌, 35, 247-256, 2016.
- Katayama H, Suzuki M, Muramatsu T, Totsu Y, Shimogawa Y, Suzue T: Effect of program based on the drawing-method about attitude toward death for response to "Tashi-society"-Using data of Japanese nursing students, American Public Health Association, 2014, <https://apha.confex.com/apha/142am/webprogram/Paper303328.html>.

鈴木 美奈(准教授)

- 鈴木美奈, 深見翔子, 村松敏那, 八木美紗希: 口腔ケアに用いるスポンジブラシの効果的な消毒方法, 第32回日本環境感染学会学術集会, 兵庫, 2017.
- 鈴木美奈, 村松妙子, 水嶋好美, 下川唯, 片山はるみ: タブレット端末による動画撮影を通した無菌操作技術の学習効果の検討, 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京, 2016.
- Aoshi T, Nagata T, Suzuki M, Uchijima M, Hashimoto D, Rafiei A, Suda T, Chida K, Koide Y: Identification of HLA-A*0201-restricted T-cell epitope on the MPT51 protein, a major secreted protein derived from *Mycobacterium tuberculosis*, by MPT51 overlapping peptide screening. Infect Immun, 76, 1565-1571, 2008.
- Suzuki M, Aoshi T, Nagata T, Koide Y: Identification of H2-Dd- and H2-Ab-restricted T-cell epitopes on a novel protective antigen, MPT51, of *Mycobacterium tuberculosis*. Infect Immun, 72: 3829-3837, 2004.

成人看護学領域

Adult Nursing

成人看護学領域では、修論コースと高度看護実践コース（クリティカルケアCNSコース）を設けています。この領域では、成人期にある患者と家族を対象とし、その発達段階の特徴をふまえ、健康障害の特徴ならびに各経過における特徴に関する実践および研究課題を追究しています。具体的な研究内容は、がん看護、慢性看護、急性期看護、周手術期看護、遺伝看護等に関する研究です。

研究指導は、月2回の英語論文抄読会、成人看護学研究検討会、および個別指導等により行っています。



杉山 琴美 菅野 久美 河島 光代
佐藤 直美 森 恵子

研究内容

がん看護	がん罹患した人々の、身体的・心理社会的・スピリチュアルな状況について分析・検討し、質の高い療養生活支援のための看護について検討する。
慢性看護	慢性病患者の疾患のとらえ方や治療に対する適応のプロセスについて分析・検討し、効果的な看護介入について検討する。
急性期看護	高度看護実践コース(クリティカルケアCNSコース)においては、クリティカルケアを要する状況に置かれた患者に対する看護実践能力の向上を目指した教育および課題研究に取り組んでいる。
周手術期看護	手術療法が患者の日常生活に及ぼす影響について、患者の体験を質的に明らかにし、そこから、術後生活再構築過程を促進するための看護支援について検討する。
遺伝看護	遺伝的問題をもつ患者および家族の、身体・心理・社会・倫理的状況について分析し、必要な看護を検討する。

教員の研究テーマ・主な業績

- 佐藤 直美(教授)・・・がん看護, 遺伝看護, 慢性看護
 1) Sato N, Sato T, et al.: Genetic aspects of smoking behavior in the Japanese population, Preedy VR, ed. Neuropathology of drug addictions and substance misuse Vol 2. London, Elsevier, 1046-1054, 2016.
 2) Sato N, Nozawa A, et al.: Assessment scales for nicotine addiction, J Addict Res Ther 51, 008, doi:10.4172/2155-6105, 2012.
 3) 佐藤直美: 日々の実践に生かすがん遺伝看護 基礎知識①-⑤, ナーシング・トゥデイ, 25, 28-32, 2010.

森 恵子(教授)・・・がん看護, 周手術期看護, クリティカルケア

- 1) 森恵子(雄西智恵美, 秋元典子編集): 周手術期看護論(第3版) 開腹術を受ける人の看護, 296-308, ヌーヴェルヒコカワ, 2014.
 2) 森恵子(雄西智恵美, 秋元典子編集): 第V章 がん手術患者に対するリハビリテーション リハビリテーション看護の特徴(手術をめぐるがん看護 意思決定支援から術後リハビリテーション看護まで), がん看護, 18, 235-239, 南江堂, 2013.
 3) 森恵子, 秋元典子: 食道切除術後の回復過程において補助療法を受けた患者の術後生活再構築過程, 日本がん看護学会誌, 26, 22-31, 2012.

菅野 久美(准教授)・・・がん看護 心身緊張緩和 外来化学療法 周手術期看護

- 1) 菅野久美, 眞嶋朋子: 外来化学療法を受けるがん患者の心身緊張緩和を促進する看護実践指針の開発, 第30回日本がん看護学術大会, 千葉, 2016.
 2) 菅野久美, 秋元典子, 眞嶋朋子: 外来化学療法を受けるがん患者の心身緊張状態と緊張緩和のための対処過程, 日本がん看護学会誌, 29, 14-23, 2015.

老人看護学領域

Gerontological Nursing

急速に進展する超高齢社会、医療の高度化、変化する保健福祉システム、多様な生活や家族のありよう等、社会の変化に対応するための老年看護に関する看護ケア開発及び看護実践への応用について研究、教育を行なっています。老人看護学の質の向上に寄与するために高齢者の生活の質やケアの質を追求し、自らの看護実践、教育、研究等に発展活用できる能力の育成を目指します。



内藤 智義 鈴木 みずえ

研究内容

認知症をもつ高齢者がよりよく生きるための看護実践方法の開発	認知症のために記憶を奪われ苦悩に直面する高齢者と家族、その人のケアに関わる看護師も含めた保健・医療・福祉専門職がともによりよく生きるための看護実践の開発を行っています。パーソン・センタード・ケアを理念に地域・急性期病院・高齢者施設のあらゆる場における認知症看護のあり方を追求していきます。
介護予防に関する看護実践の開発	高齢者になると老化現象に伴う肉体的・精神的な仕組みや働きが低下して、特有の症状・病態、さらに心身の障害に陥る老年症候群(生活機能低下、転倒骨折、排泄障害、摂食嚥下障害など)を起こしやすくなり、看護の専門性の高い実践が高齢者の生命予後にも影響しています。転倒・骨折などの老年症候群の原因分析やそれらを引き起こす痛みのアセスメント、さらには予防に関する看護方法を開発しています。
認知症高齢者への排他ケアモデルの構築に関する研究	高齢者施設における看護職・介護職が実践している認知症高齢者の排他障害への取り組みから、各専門職のケアの内容、専門職種間の連携・協働がつくりだすケアの内容を明らかにし、認知症高齢者が「その人らしく、心地よく排泄する」ことを支えるケアとはどのようなものなのか、ケアモデルの全体像を考案するよう取り組んでいます。
在宅高齢者の疼痛の実態、疼痛が及ぼす日常生活への影響	その他にも、高齢者のその人が本来持っている力や心身の機能の維持・改善を支えるための看護、保健・医療・福祉システムの中での多職種連携における看護専門性の明確化もまた、取り組むべき課題と位置付けています。

教員の研究テーマ・主な業績

- 鈴木みずえ(教授)・・・高齢者の介護・転倒・認知症予防のための看護介入方法・ケアシステムの開発、高齢者のQOLの向上のための看護介入・看護ケア効果評価
 1) 鈴木みずえ, 吉村浩美, 宗像倫子, 鈴木美恵子, 須永訓子, 勝原裕美子, 桑原弓枝, 水野裕, 長田久雄: 急性期病院の認知障害高齢者に対するパーソン・センタード・ケアをめざした看護実践自己評価尺度の開発, 日本老年看護学会誌, 20, 36-46, 2016.
 2) Suzuki M, Tatsumi A, Otsuka T, Kikuchi K, Mizuta A, Makino K, Kimoto A, Fujiwara K, Abe T, Nakagomi T, Hayashi T, Saruhara T: Physical and psychological effects of 6-week tactile massage on elderly patients with severe dementia, Am J Alzheimers Dis Other Dement, 25, 680-686, 2010.

母性科学領域

Maternal Nursing & Midwifery

「midwife」の語源は、「woman who is with the mother」であり、女性の側に寄り添い、新しい命の誕生に立ち会うという助産師の普遍的な使命があります。社会の変化に対応できる母性看護を考えるために社会構造の変化、多様化する社会、女性の社会進出、在日外国人やハンディキャップをもつ母子などの課題を母性看護学の理論やこれまでの研究を活用して考察します。そして、女性と家族に焦点をあててこれからの時代に相応しい母性看護を皆さんと一緒に考えていきます。



木村 幸恵 齊本 美津子 田坂 満恵
安田 孝子 武田 江里子

研究内容

女性へのケア	子育て中の母親のおしゃれ意識、妊娠糖尿病妊婦の分娩後の予後、母親が出産後に再喫煙する関連要因、若い女性のやせや月経周期と生活習慣の関連などに取り組んでいます。
子育て支援	母親の養育者としての発達と育児期におけるストレス、SAT法(Structured Association Technique)を用いた支援について研究しています。在日外国人も含む母子・家族を対象としています。

教員の研究テーマ・主な業績

- 安田孝子(教授)・・・母親のおしゃれ意識とチャイルド・マルトリートメントの傾向、妊娠糖尿病妊婦の食事・生活行動の調査、妊娠中に禁煙した母親が出産後に再喫煙する実態、若い女性のやせの現状ややせ願望と生活関連要因、月経周期とおしゃれ意識の関連
 1) Yasuda T, Ojima T, Nakamura M, Shibata Y: Relationship between maternal depressed mood and mothers' feelings for their children using Attachment-Caregiving Balance Scale among Japanese women who raise their 18-month-old children. 18th ISPOG Congress, Malaga, Spain, May, 12-14, 2016.
 2) 安田孝子, 尾島俊之, 中村美詠子: 月経周期と生活行動要因・精神的要因との関連, 静岡県母性衛生学会誌, 6, 11-14, 2016.
 3) Yasuda T, Ojima T, Nakamura M, Nagai A, Tanaka T, Kondo N, Suzuki K, Yamagata Z: Postpartum smoking relapse among women who quit during pregnancy: cross-sectional study in Japan, Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 39, 1505-1512, 2013.
- 武田江里子(教授)・・・母親の養育者としての発達に関する研究、育児期の母親のもつストレスの本質、SAT法と個々の母親に応じた子育て支援、在日外国人の母子支援
 1) 武田江里子, 他: 乳幼児を子育て中の母親から子どもへの「愛着-養育バランス」に影響する内的要因-母親の被養育体験と内的作業モデルの影響-, 日本看護科学会誌, 36, 71-79, 2016.
 2) Takeda E, et al: Stress and Stress Management that Impact the Development of the Caregiving System in Mothers at 1-month Postpartum, ICM 30th Triennial Congress International Confederation of Midwives, Czech Republic July, 2-5, 2014.
 3) Takeda E, et al: The development of a maternal caregiving system: Based on changes in the attachment-caregiving balance scale up to 6-7 months postpartum, Journal of Japan Academy of Midwifery, 27, 237-246, 2013.

小児看護学領域

Child Nursing

小児看護学領域では、少子高齢化に伴うさまざまな社会の変化に対応するために、子どもと家族を対象とした看護職に求められる役割と課題について理解します。その上であらゆる健康レベルの子どもと家族の看護における研究課題を追求し、得られた知見を看護実践、教育に活用できる能力の育成を目指します。
 研究指導は、小児看護学に関する書籍・論文検討を実施し、研究課題に関する個別指導、関連学会・研究会での発表指導、母子看護学合同ゼミなどを行っています。



坪見 利香 宮城島 恭子

研究内容

小児がん患者・経験者とその家族の体験および支援に関する研究	小児がん患者・経験者の病気の受け止め、健康管理や社会生活調整に関する主体性・自立・意思決定、家族や医療者など周囲の人とのコミュニケーション、退院・復学支援などの研究に取り組んでいます。
小児看護学教育に関する研究	小児看護学実習や講義における学生の学びと効果的な教育方法を検討しています。
発達障がいをもつ子どもと家族の看護に関する研究	発達障がいをもつ子どもと家族への援助における看護師の役割を検討しています。

教員の研究テーマ・主な業績

- 宮城島恭子(講師)・・・小児がん患者・経験者と家族の体験および支援に関する研究
 1) 宮城島恭子他: 小児がんをもつ子どもの学校生活の調整に関する意思決定プロセスと決定後の気持ち―活動調整と情報伝達に焦点を当てて―, 日本小児看護学会誌, 26, 51-58, 2017.
 2) 宮城島恭子他: 小児がん経験者が病気をもつ自分と向き合うプロセス―生活変化と心理変化に焦点を当てて―, 日本看護研究学会雑誌, 38, 251, 2015.
 3) 宮城島恭子他: 小児がん経験者の周囲の人への病気説明の見極めに関する経験, 小児がん看護, 10, 2015.
 4) 宮城島恭子他: 思春期の小児がん患者の日常生活における自己決定の患児と母親の捉え方, 小児がん看護, 1, 1-12, 2006.

地域看護学領域

Community Health Nursing

WHOが提唱しているプライマリー・ヘルスケア、ヘルスプロモーションの基本理解を踏まえて、地域の集団特性に伴う健康回復、維持増進のために、地域の健康状態把握、資源の活用・資源の開発・看護援助方法について探求します。また、個人・家族及び集団の健康指標、質的・量的評価、顕在・潜在している健康問題の解決のための研究に取り組み、地域看護学領域において研究する能力の育成を目指します。

研究指導は、地域看護学検討会、原著論文抄読会、学会・論文発表指導、個別指導・相談等により行っています。



水田 明子 佐野 雪子 菊地 慶子
大塚 敏子 巽 あさみ

研究内容

公衆衛生看護	公衆衛生看護活動における虐待予防などについて効果的な介入方法と評価方法の開発、地域住民のQOLの向上に焦点を当てた看護活動、保健福祉計画策定、システム構築、評価に関する全般に関する研究。
産業看護	働く人々を対象に主にメンタルヘルス、ストレス対策と保健指導に対する効果的な看護介入方法と評価方法の開発、健康支援システムの開発、教育方法など労働者のQOL向上を目標とする看護支援方法を検討する。
学校看護	児童・生徒を対象に禁煙教育など効果的な介入方法と評価方法について研究する。
在宅看護	ダブル介護、高齢介護者の社会参加とメンタルヘルスについて研究する。

教員の研究テーマ・主な業績

- 巽 あさみ(教授)・・・子ども虐待予防、メンタルヘルス・ストレス、健康支援システム開発。
 1) 巽あさみ(編著):睡眠保健指導マニュアル, 1-47, 一般社団法人日本家族計画協会, 2015.
 2) Hiruta S, Shimaoka M, Tatsumi A, et al.: Relationship between an amount of Key Tasks and Job Satisfaction among Caregivers and Nurses in Elderly Care Facilities. Annals of Occupational and Environmental Medicine, 26, 24, 1-5, 2014.
 3) 巽あさみ:働く女性のワーク・ライフ・バランス, Occupational Health Journal, 36, 13-18, 2013.

大塚 敏子(准教授)・・・未成年の危険行動に対する予防教育、保健師や保育士の発達障害児の保護者への支援方法の検討

- 1) 大塚敏子他:高校生の将来喫煙のリスクに対応した喫煙防止教育の効果の検討, 地域看護学会誌, 14, 72-81, 2012.
 2) Otsuka T, et al.: Influence of environmental factors on the smoking and smoking intention in high-school students of six prefectures in Japan, Japanese Journal of Health and Human Ecology, 74, 114-128, 2008.

水田 明子(准教授)・・・思春期のメンタル、子どもの貧困と健康格差、ダブル介護、高齢介護者の社会参加とメンタルヘルス

- 1) Mizuta A, Suzuki K, Yamagata Z, Ojima T: Teachers' support and depression among Japanese adolescents, a multilevel analysis, Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology, 1-9, 2016.
 2) Mizuta A, Fujiwara T, Ojima T: Association between economic status and BMI among adolescents: A community-based cross-sectional study in Japan, BMC Obes, 3, 47, 2016.
 3) Mizuta A, Noda T, Nakamura M, Tatsumi A, Ojima T: Class average score for teacher support and relief of depression in adolescents: A population study in Japan. Journal of school health, 86, 173-180, 2016.

精神看護学領域

Psychiatric-Mental Health Nursing

精神看護学領域では、地域社会におけるメンタルヘルスの現状を把握し、心の健康とその障害を持つ人への理解を深め、精神保健看護に関する研究課題を探求していきます。精神看護学領域における看護実践、研究、教育に貢献する人材の育成を目指します。

学生が関心をもつ領域におけるメンタルヘルス上の課題を明らかにし、研究を助めていくための指導を行います。研究課題に関する個別指導、研究室研究会での討論などを行います。

【授業担当教員】
千々岩 友子 増田 郁美

研究内容

メンタルヘルスに関する研究	第1次・第2次・第3次予防の観点から、様々な領域のメンタルヘルス上の課題を明らかにし、現状・関連要因・対策について検討します。
精神科リハビリテーションに関する研究	精神保健福祉の現状と課題の観点から、精神科リハビリテーションのあり方を検討するとともに、その中で行われる看護支援のモデル化について探究します。
精神看護実践の現象の解釈に関する研究	精神看護実践における看護状況、つまり現象の解釈から意味を導き出し、必要とされる看護について探究します。

教員の研究テーマ・主な業績

- 千々岩 友子(准教授)
- 1) 千々岩友子, 他:在宅療養中の統合失調症者が支援者と関係を構築していくプロセス, 日本外来精神医療学会誌, 16, 61-67, 2016.
 2) Chijiwa T: Meanings of descriptions of the status of nursing care provided by a psychiatric nurse: based on phenomenological interpretation. International Journal of Nursing & Clinical Practices 3, 1, 2015.
 3) 千々岩友子, 他:精神科デイケア導入期における看護師のケア内容に関する研究, 日本デイケア学会誌, 18, 2-11, 2014.
 4) 千々岩友子:看護における臨地実習の意味, 看護実践の科学, 39, 60-64, 2014.
 5) 千々岩友子:患者の側に黙っていることの現象学的解釈—精神科看護師の覚え書きを通して—, 臨牀看護, 38, 1055-1058, 2012.

高度看護実践コース

クリティカルケア看護学

高度看護実践コース(クリティカルケアCNSコース)では、主に成人看護学における急性期看護に焦点をおき、救命救急センター・集中治療室に限定せず、クリティカルケアを要する状況に置かれた患者およびその家族に対する看護援助方法の開発を目指した教育および研究に取り組んでいます。また、生命の危機状況にある(あるいは潜在する)患者や、治療に伴う苦痛・苦悩などを抱えて療養する患者の安全安楽およびQOL向上を目指した看護援助技術の開発や研究を行っています。

本コースは、平成19年度に急性・重症患者看護専門看護師教育課程(26単位)として認定を受け、昨年度更新を行ないました。これまで3名の修了生が静岡県内の病院において、急性・重症患者看護専門看護師として活動を行っています。平成28年3月に1名が本コースを修了し、また、現在5名の学生が本コースに在学しています。

具体的な研究指導領域として、救命救急看護領域、がん看護領域、周手術期看護領域におけるクリティカルケア看護等に関する課題研究の指導を行っています。研究指導は、月2回の英語論文抄読会、月1回の研究ゼミ、および個別指導等により行われます。英語論文抄読会、研究ゼミを通して活発なディスカッションが行われています。



森 恵子 菅野 久美

クリティカルケア看護CNS
課程に関する問合せ先

TEL.053(435)2828

成人看護学 森 まで

E-mail:keimori@hama-med.ac.jp

Critical Care Course

授業科目及び単位数(平成29年度)

授業科目の名称		授業を行う年次	単位数	摘要
共通科目	看護研究	1	2	
	看護教育論	1	2	高度看護実践コース
	看護理論	1	2	8単位以上を選択
	看護倫理	1	2	
専門科目	看護政策論	1	2	
	急性期看護学特論	1	2	
	急性期病態生理学	1	2	高度看護実践コース
	急性期治療管理論	1	2	22単位を必修
	クリティカルケア看護援助論Ⅰ	1・2	2	
	クリティカルケア看護援助論Ⅱ	1・2	2	
急性期安楽・緩和ケア論	1・2	2		
クリティカルケア実習	2	6		
成人看護学課題研究	2	4		

履修単位数: 30単位以上

実習病院: 浜松医科大学医学部附属病院

(必要に応じて、その他の病院でも実習を行います。)

【修了生課題研究等】

1. 神谷 有里子	心臓血管外科手術を受けた患者の術後体験(H22年度修了)
2. 本家 淳子	「Integrated Approach to Symptom Management」による呼吸困難患者の看護ケアの試み(H22年度修了)
3. 豊崎 曜子	意識障害患者に代わり緊急開頭術を決定した家族の体験(H23年度修了)
4. 笠原 真弓	救命救急センターに救急搬送された患者の治療決定場面に立ち会う看護師の体験(H27年度修了)
5. 増田 喜昭	急性・重症患者看護専門看護師が実践するモニタリング(H28年度修了)

担当教員の研究活動については、成人看護学領域の項目をご参照ください。

助産師養成コース 助産学

助産師 Midwife ... Mid + wife

助産師(Midwife)とは、女性とともにいる女性を意味しています。周産期の母子・家族はもちろんですが、女性とそこに関わる人々を生涯に亘って支援していく専門職です。本学では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基盤とした教育を行います。母子とその家族や地域の人々に寄り添い、いかなる対象のニーズにも応え得る高度な診断能力及び科学的根拠に基づいた質の高い実践能力、研究能力、教育力を身に付けることにより、マネジメント力を培い、地域の周産期医療の充実、国際的視野を持って母子保健の発展に貢献できる指導的役割を担える人材の育成を目指しています。



齊本 美津子 安田 孝子
木村 幸恵 武田 江里子 田坂 満恵

Midwifery Course

授業科目及び単位数							
区分	専門分野	授業科目の名称	授業を行う年次	単位数	必修・選択		
					必修	選択	
共通科目		看護研究	1	2	○		
		看護教育論	1	2	○		
		看護理論			2		○
		看護倫理			2		○
		看護政策論			2		○
		免疫学			2		○
		医療薬理学			2		○
		病理学			2		○
		4単位					
		専門科目	助産学	助産学特論Ⅰ 概論/ヒューマン・セクシュアリティ	1	2	○
助産学特論Ⅱ 生殖生命倫理/遺伝学	1			2	○		
助産学特論Ⅲ 周産期学	1			3	○		
助産学特論Ⅳ ウィメンズ・ヘルス	2			1	○		
助産学特論Ⅴ 助産診断技術学	1			3	○		
助産学特論Ⅵ 教育方法論/ソーシャルスキル	1			2	○		
助産学特論Ⅶ 助産管理学	1			2	○		
助産学特論Ⅷ 地域/乳幼児/DV・虐待	1			3	○		
助産学特論Ⅸ ハイリスク/異文化	2			2	○		
助産学演習Ⅰ 助産診断技術学/東洋医学	1			3	○		
助産学演習Ⅱ 健康教育	1後~2前			3	○		
助産学実習Ⅰ 分娩介助/継続事例	1			11	○		
助産学実習Ⅱ 助産院/継続事例	1後~2前			4	○		
助産学実習Ⅲ ハイリスク	2			5	○		
助産学実習Ⅳ 地域	1	2	○				
助産学実習Ⅴ マネジメント	2	1	○				
49単位							
研究		助産学研究	1	1	○		
		課題研究	2	4	○		
5単位							
修了に必要な単位数			計58単位以上				

履修単位数 58単位 ※本コースには長期履修制度は適応できません。

カリキュラムの特徴

1年次に助産師として必要な基礎的能力及び研究のための基礎的能力を身に付けます。課題研究では、より良いケアに結びつけるための実践的な事例研究を行います。全ての科目の中で問題意識を持って取り組むことで、自らの課題の明確化及び研究の必要性について学び、課題研究を通して高度実践力・研究力・マネジメント力・教育力・指導力の統合を図ります。演習・実習の中では、在日外国人も含む様々な対象へのケアとして5つの健康教育を実施します。必修単位の半数を演習及び実習に費やしており、実践力が強化できるカリキュラムとなっています。

修了後は、
・修士(看護学)
・助産師国家試験受験資格
・受胎調節実地指導員申請資格
・新生児蘇生法「専門」コース(A)認定
が得られます。



【実習施設】			
病院	浜松医科大学附属病院 浜松医療センター 木村産科・婦人科 磐田市立総合病院 産育会堀病院 聖隷浜松病院		
	助産院	毛利助産所 くさの助産院 矢島助産院 川淵助産院 和助産院 よこさわ助産院	
		地域	磐田市 静岡県女性相談センター 子ども虐待防止センター いぬかい小児科 思春期健康相談室 ムンド・デ・アレグリア学校 しんえい保育園

Message From Graduates

平成29年3月修了
基礎看護学
(基礎看護学領域)
修士論文コース
根木 香代子



NEGI KAYOKO

私が大学院へ進学を希望した理由は、臨床現場で経験を重ねて、指導的立場になったとき、中堅看護師の自己学習力に疑問を抱き、それを高めていく支援をするために現状を明らかにしたいと感じたからです。入学後は看護研究や倫理、看護教育などの講義を受講するため職場の協力を得て勤務調整をし、勤務終了後や夜勤明けに大学に向う日々でした。これらの講義は臨床で看護をすることに多いにプラスになりました。

基礎看護学のゼミナールは、異なる職場や職位の大学院生とのディスカッションを通して自分の看護実践を見直す良い機会であり、私にとって良い刺激となり有意義で大変貴重なものとなりました。

自分が感じた疑問を明らかにする研究について、研究手法の知識が少ない私にとって苦労の連続でした。研究テーマを精選するための文献検討の初歩から研究へのアプローチ、分析方法、まとめ方まで丁寧、親切に指導教員にご教授頂き、大学院を修了できたことに深謝しております。また修了できたときに得られた達成感、更なる挑戦をしていく原動力になることを経験しました。看護の現場で疑問を抱いている多くの看護職の方々にぜひ挑戦して頂きたいと思います。

学生時代より看護学の面白さを知り、漠然と大学院への進学の希望を抱いていました。総合病院での勤務が10年を経過した頃より、患者様のケアを決定する看護師の判断について疑問に感じるようになり、大学院への進学を決めました。入学後は、異なる領域で活躍し、様々な経験を持つ大学院生と出会い、講義やゼミなどでディスカッションすることで、看護の視野が広がりました。そして何より、指導教授の佐藤先生から、研究テーマの設定から分析や論文作成に至るまで、繰り返し丁寧なご指導をいただき、何とか修士論文を書き上げ、修了を迎えることができました。

修士課程では、仕事や子育てをしながらも、講義や研究に取り組む大学院生が多く、互いに励ましあいながら学び続けることができました。また、職場や家族の理解と協力があったことも、研究を進める上で大きな原動力となりました。院生生活は多忙ではありましたが、周囲に支えられていることを実感しながら、充実した日々を過ごすことができたと感じています。今後は、大学院での経験を活かし、臨床の場でも看護を学び、深めていくことを継続していきたいと考えています。

平成29年3月修了
成人・老人看護学
(成人看護学領域)
修士論文コース
鈴木 有希



SUZUKI YUKI

畑畑の職業から助産師を志しました。敢えて大学院で学ぶことについては、早く臨床に出た方がいいのではないかと葛藤がありました。今は本学の助産師養成コースに進んでよかったと深く感じています。本学附属病院及び医療センターでは、教育体制を整えてくださり、熱いご指導のもと深く学ぶことができたこと、東京・静岡・神戸に分散しての助産院実習で医療とはまた違う体験をして、身体の仕組みについて感動したこと、分娩数と分娩様式に特徴のある横浜の病院でまたこれまでの考えが覆されたこと、各種性教育・健康教育では対象者が求めている部分にいかにか打ち込めるかをメンバーと追求し...と様々なことから今後の課題とすることができました。これらは、助産学分野の武田先生、木村先生、田坂先生、安田先生方が2年間24時間体勢で公私ともに全力で支えてくださっている安心感があってこそできたものです。ガッツリと基盤を整えてくれ、そこで自身の学びを追及していったこと、そして助産を超えたものを日頃から教えてくださったことは感謝しても足りません。現役大学院生とも意見交換する機会も多く、全領域の先生方も必ず支えてくださいました。本学大学院で学んだことを基に、これから努力していきたいと思っています。

平成29年3月修了
助産学(助産学領域)
助産師養成コース
岡本 紗由美



OKAMOTO SAYUMI